

デビュー作・一挙掲載650枚!

松家仁之

「火山のふもとで」

新潮

The Shincho
Monthly July 2012
今年108年目の文芸誌

新連載小説

島田雅彦

「ニツチを探して」

対談

高橋源一郎 + 川上弘美

都甲幸治 + 柴田元幸

松浦寿輝 「東京大学最終講義」

新潮

第25回 三島由紀夫賞発表

青木淳悟

「私のいない高校」

受賞記念対談

保坂和志 + 青木淳悟

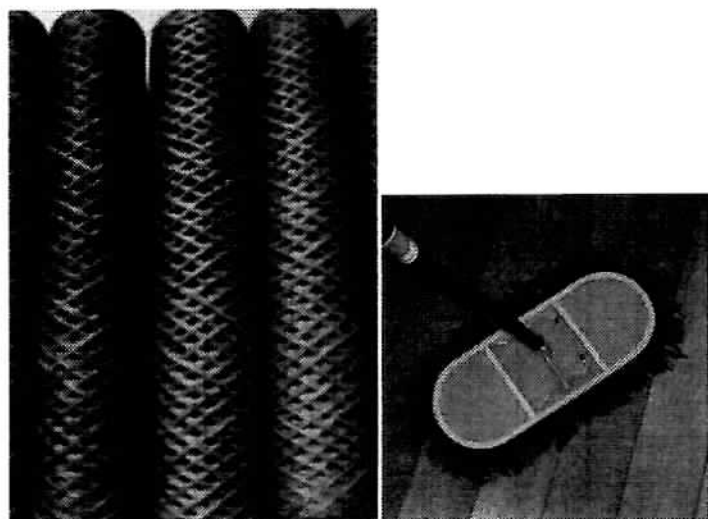
海水や淡水中の放射能汚染を除染

放射線グラフト重合技術がセシウムなどの放射性物質を吸着

放射性物質吸着材の量産化を実現

(株)環境浄化研究所

昨年の原発事故以来、拡散した放射性物質による汚染の浄化・除染問題が深刻化する中、(株)環境浄化研究所(須郷高信社長)は同社が持つ放射線グラフト重合技術を応用し、汚染された海



放射性物質を吸着・除染するフィルターとモップ(右)

水の中のセシウム、ヨウ素、ストロンチウムなどの放射性物質を選択的に効率よく吸着・除染する機能性繊維を開発。その実用化と量産化に成功した。

グラフト重合とは木の枝に接木(グラフト)するように、放射線によって素材と結びついた分子の枝を切断し、その分子の空いた枝に目的に応じた分子を選択的に取り込む技術で、すでに須郷氏によってボタン電池用隔膜の製造や海中からのレアメタル(希少金属)回収の技術としても応用されている。

その技術をベースに、このたび海中の放射性物質による汚染を除染するモール状吸着材をはじめ河川の河口や水田を除染するロープ状吸着材、湖沼やプールなどを除染するワインドファイバー状吸着材、汚染焼却灰からの地下への浸透を防ぐネット状吸着材、そ



須郷高信社長

賞歴
1976年、科学技術庁長官賞。2005年、社会文化功労賞。2008年「日本原子力学会」原子力知識・技術の普及貢献賞。2010年、平成21年度、日本放射線化学会 技術賞。

して一般家庭の床や壁面洗浄用の除染モップ等も製品化した。

海中の除染を目的としたモール状吸着材はスタレ状に設置され波のある海中でも高機能を発揮するなど、それぞれの吸着材が除染を必要とする場所や目的に応じて高機能を発揮するように開発されているのが特長で除染後は汚染を拡散させず高温高压化で減容し安全に貯蔵管理できる。

なお、須郷氏は本年4月、この放射線グラフト重合技術を用いた環境浄化製品の開発で文部科学大臣表彰「科学技術賞」を受賞。昨年の事故も「原子力の技術の問題か施設や設備の問題だったのか科学の目で正しく分析することを」と警鐘を鳴らしている。

本社 群馬県高崎市新田町5-2

☎ 027・322・1911